

平成 20 年度 宮崎県支部総会開催報告

獣医部会 西元 俊文
(昭和 55 年卒業)

南国宮崎では珍しく0℃まで冷え込んだ、去る 1 月 24 日(土)、大学から政岡俊夫学長においでいただき、県支部総会が開催されました。

まず、長友士郎支部長(S36 卒)が開会の挨拶のなかで同胞の訃報にふれられ、「人は宝、悩みを相談できる友を持つことの大切さ」を切実に訴えられました。また、代議員会復命では、同窓会本部に対する会員の会費納入額が年々減少していることによる、本部のきびしい台所事情についても報告がありました。

次に、来賓挨拶では政岡学長が、世界的に獣医師の力が認められてきている今、今後の獣医学教育における国立大の小規模性の改善や私学の組織充実の必要性について話され、一同、獣医師の更なる資質向上に希望を抱いたところでした。

議題では、まず、来年本県で開催される日本獣医師会学会年次大会にあわせて開催する麻布大学同窓会と同窓会ブースの設置について協議しました。特に大会会場内に設置する同窓会ブースについては、その費用捻出が話題となりましたが結論が出ず、今後、役員や関係者間でさらに検討する事



となりしました。また、本年 11 月の大学祭における模擬店出店については全会一致で承認され総会を終了いたしました。

そしていよいよ黒木延幸副会長(S36 卒)の乾杯の音頭を合図に懇親会に突入。恒例の自己紹介では、大学時代の懐かしい話や、未婚の息子や娘に子供ができた生々しい近況報告など、掟破りの無差別発言に会員一同、笑いやため息連

発のひとつときを楽しく過ごしました。また、最後には例によって円陣を組み、自称グリークラブ出身(見た目は絶対相撲部)黒木政博先輩(S49 卒)の指揮のもと、隣室の迷惑も顧みず麻布大学校歌を熱唱し解散となりましたが、おとなしく帰る者などいるはずもなく、すぐに集結して政岡学長ともども夜の繁華街「ニシタチ」に繰り出したのは言うまでもありません。